

# 地域学校協働活動「池田っ子チャレンジ教室」活動について ～地域講師の助力のもと、興味・関心の芽を育て自発的な学ぶ力の育成～

池田町教育委員会 社会教育課

## 1. はじめに

日本は少子化が進み、令和5年の日本の出生数は約72万7000人と、8年連続で過去最少を更新した。池田町も令和5年の出生数は76人と、10年前の約40%まで低下しており特に少子化が進む自治体の1つと言える。

また、出生数や子どもの人数に反比例するようにライフスタイル・子育ての手法は多様化しており、個人の特性を踏まえた暮らし方、育て方を模索していくことが求められるようになってきている。

そのように、近年子どもたちを取り巻く生育環境は複雑化し、学校教育現場に限らずそれ以外の場所においても、安心・安全な居場所を提供し、そこで自由かつ有意義に遊んだり、学んだりする機会の充実化が必要とされている。そのニーズに対応するため、当町では「池田っ子チャレンジ教室」という事業を実施している。

## 2. 「池田っ子チャレンジ教室」事業の概要

岐阜県では、学校・家庭・地域が連携して子どもたちを育むとともに、地域ぐるみの教育や絆づくりを通して、地域への誇りや愛着を持ち続ける心の育成を目指して「学校・家庭・地域連携協力推進事業」を行っている。

それに伴い、池田町では、子どもたちが学校以外で放課後や休日を安心して有意義に過ごすための居場所を作り、友達や家族などとの健全な遊びや体験学習等を通して、様々な分野への興味関心や好奇心の発揚、一つのことに取り組み続ける力、成功や失敗から学ぶ力の育成、また、新たな分野へ一歩を踏み出す自発性の向上を図るべく「池田っ子チャレンジ教室」を実施している。

池田っ子チャレンジ教室は、「平日コース」と「休日コース」の2つのコースがあり、「平日コース」では、平日の放課後の時間、各学校グラウンド・体育館などを活動場所に年間5回、「休日コース」では、休日・長期休暇の時期に年間約50回の教室を開催している。

教室の題材はクッキング、サイエンス、クラフト、将棋、パソコンなど計13種類があり、それぞれ地域住民の有志の方を講師として招いている。



「親子クッキングチャレンジ！」  
お昼ご飯を作ろう



「キッズ・サイエンス」  
スーパー水ロケットを作ろう！



「ハンドメイド・アクセサリ」  
クリスマスリースを作ろう！

### 3. 教室参加者の特色

令和5年度の「池田っ子チャレンジ教室」参加者は143人で、中高生や未就学児を除いた小学生の参加人数は140人であった。これは、町内小学生の約10.6%にあたる。

その属性を性別と学年でそれぞれ分類すると、右記の表のようになった。参加者は男子と女子がおおよそ1:2の割合となり、参加学年の割合は、4年生が一番高くなっている。

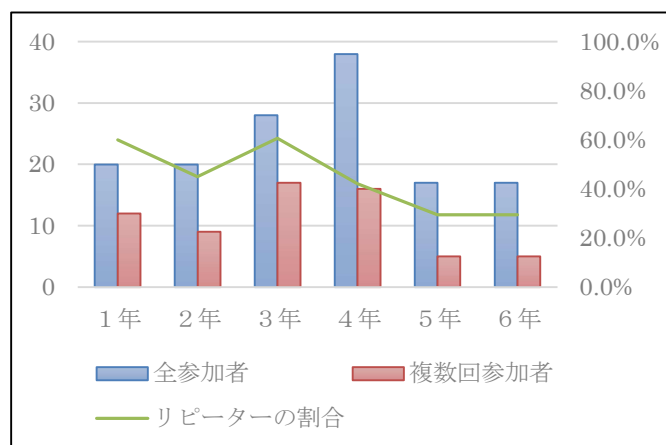
また、「池田っ子チャレンジ教室」は、放課後、休日に安全・安心して過ごせる居場所作りを目的としており、居場所作りの成果として、年間に複数回参加するリピーターの存在も重要となる。令和5年度において、年間に複数回教室に参加したリピーターの人数は143人中65人と、約45%がリピーターとなり複数回参加をしている。このことから、当事業が放課後、休日の居場所として一定の成果を挙げていると言える。

リピーターを学年別に見ると、1年生から3年生はリピーターの割合が多く、4年生から6年生は少なくなっている。割合は僅差で3年生が一番高くなっているが、1年生の中には12回、11回参加と突出して高い参加回数の子もいることから、特に1年生に対し居場所作りとして効果を発揮しているとみられる。逆に5、6年生は、3回以上参加をしたリピーターの35人中、2学年合わせて5人となっているが、これは少年団活動の本格化や学習塾への通塾など、当事業の他にもさまざまな居場所があるためとみられる。

	参加人数	割合
男子	52人	36.4%
女子	91人	63.6%

学年	参加人数	割合
1年生	20人	14.0%
2年生	20人	14.0%
3年生	28人	19.6%
4年生	38人	29.6%
5年生	17人	11.9%
6年生	17人	11.9%
その他	3人	2.1%

参加回数	人数	割合
1回	78人	54.5%
複数回	65人	45.5%



### 4. おわりに

子どもたちを取り巻く生育環境は複雑化し、学校教育現場以外において、安心・安全な居場所を提供し、そこで自由かつ有意義に遊んだり、学んだりする機会の充実化が求められている。

池田町でも、この「池田っ子チャレンジ教室」が、学校現場以外での放課後・休日にさまざまなジャンルの体験活動を通して遊び、学ぶことができる居場所として一定の貢献をしている。

子どもたちがこれから生きる現代は、過去より技術革新が比喩にならない速さで進み、社会を取り巻く情勢も刻一刻と変化を続けている。こうした中で必要課題と子どもたちの要求課題を見極め、地域の皆様に助力いただきながら、より興味・関心の芽を育て自発的な学ぶ力の育成を目指し、事業を実施していきたい。

